

受験生を持つ保護者の皆様へ・・・
お子様の合格可能性が高くなる良いお話

お子様にはもちろん、保護者様にも幸せになって欲しい・・・

<はじめに>

こんにちは、太陽進学塾の白坂と申します。学習塾講師一筋10年の塾人です。これまで約1500人を超える小・中学生に指導をしてきました。そして、その子供達の保護者様にお世話になってきました。

保護者様と個別カウンセリングという形でお子様の進路相談や学習相談をしてきました。そして、保護者様からいただいた多くのご相談のほとんどが以下の3つのいずれかでした。

- ・ 「うちの子は、なかなかやる気になりません。」
- ・ 「うちの子は、家で全然勉強をしません。」
- ・ 「親の目から見ても頑張っていると思うのですが、なかなか成績が上がリません。」

熱心な保護者様ほど、お子様の進路や学習状況を心配されていると思います。ご相談いただいた時は、保護者様のお話をよくお聞きして、そしてその時・その時で、私から色々なお話をさせていただきました。

この小冊子は、私の10年間の個別カウンセリングで保護者様にお話をさせていただいたことをまとめたものです。読まれた保護者様の不安が少しでも軽くなり、笑顔でお子様と接する機会が増えるキッカケとなれば、これ以上の喜びはありません。

白坂 慎太郎

受験生を持つ保護者の皆様へ・・・
お子様の合格可能性が高くなる良いお話

【もくじ】

<はじめに>

1章『うちの子は、なかなかやる気になりません。』

1. 「お子様の夢をご存知ですか」
 2. 「一番恐ろしいのは・・・」
 3. 「コーチングの天才」
- コラム「思い出に残る生徒 1」

2章『うちの子は家で全然勉強をしません』

4. 「家は勉強をする環境?!」
 5. 「一番エネルギーが必要なのは・・・」
 6. 「燃やし続けるために・・・」
- コラム「思い出に残る生徒 2」

3章『親の目から見ても頑張っていると思うのですが、
なかなか成績が上がリません。』

7. 「目に見えない生長」
 8. 「受験はマラソン」
 9. 「言霊」
- コラム「思い出に残る生徒 3」

<おわりに>

1章『うちの子は、なかなかやる気になりません。』

1. 「お子様の夢をご存知ですか」

2007年4月、この太陽進学塾が開校してすぐに、子供達全員に、将来の夢と今年の目標を書いてもらいました。そうすると、小学校5年生や6年生の子供達は、紙とペンを渡したら、すぐに書いて持って来てくれました。しかし、学年が上がるにつれて、自分の夢を書くのに時間がかかる子供が増え、中学3年生のある男子は30分以上かかってから、やっと持って来てくれました。

また、保護者様が来塾された時に、教室に張ってあるお子様方の夢をご覧になって、「うちの子は・・・」と探して、「へえ〜♪」と感心される方が多いようです。

何のためにするのか・・・がハッキリしないことに対してはやる気が起きないものです。もし、保護者様はお子様から「何で勉強なんかしなければいけないの？」と質問されたら、何とお応えになるのでしょうか。いい中学校に行くため？ いい高校へ行くため？ いい大学へ行くため？ いや、その先にある自分の夢を実現するためですよね(^ ^)お医者さんになるにしても、弁護士になるにしても、客室乗務員になるにしても、学校の先生になるにしても、その職業になるため、そしてその職業で活躍するためには、勉強は絶対に不可欠なものです。でも、将来の夢がない生徒に対して、ただ、勉強は大切だから、頑張りなさい!」と言っても、ピンとこないものです。

私の父は、波乱万丈の人生を送りました。自分で会社を立ち上げたこともあれば、会社員時代に全国の営業成績で表彰されたこともありました。自宅では仕事の愚痴や不満を全く言わない強い父でした。でも、私の学生時代に職業や資格試験について一杯話ってくれました。その度に、「よし、頑張りよう!」と決意したものです。

学期に1回でいいです・・・親子で真剣に、「将来の夢」について話をする場を持ってください。お子様の夢を聞くだけでなく、保護者様自身の夢をお子様に熱く話して下さい。お子様が、「何のために勉強をするのか」ということが分かり、夢を持ち始めた時が、勉強に対してやる気を持つ第一歩です。

2. 「1番恐ろしいのは・・・」

お子様の成績を伸ばすのに1番の障害になるもの・・・

それは「劣等感」です。「数学は嫌い」、「僕はどうせ頭が悪いから」、「社会の歴史は覚えることが出来ない」・・・そのように本人が思い込んでしまっていると、勉強時間の割には効果が現れにくいのです。

好きなもの・興味のあるものは、どんどん理解できる、どんどん覚えられるのに、嫌いなもの・苦手なものは全然覚えられない・・・例えば、私でしたら中国の三国志でしたら、もの凄い数の人物名を知っていますが、生徒から理科の質問をされると未だに緊張してしまいます（^^）；

これは脳の潜在意識と顕在意識の働きに関係があります。情報は先に潜在意識でキャッチされ、それを顕在意識へ伝えるのですが、「私はこれが嫌い・出来ない」という認識（専門用語でいうとメンタルブロック）がその情報を顕在意識に伝えにくくしてしまうのです。

しかし、人間は元来、もっと向上したいという本能を持った生き物です。赤ちゃんは誰から強制されなくても、自分の身の回りの色々なものに興味を示し、言葉を発しようとしたり、自分の足で立とうとしたりします。ずっと寝ていた方が楽にもかかわらず・・・です。だから、本人が劣等感を持たなければ、自分が興味・関心のあることは、学び続けるはずなのです。もし、本人が劣等感を持ってしまっていたら、それは残念ながら外部から与えられたものです。保護者様からかもしれない・学校の先生からかもしれない・お友達からかもしれない・・・自分の成長速度を超えて要求されたことに対して応えられなかった、他の優れた人と比べられた、目的も知らされずに無味乾燥な作業のような勉強ばかりさせられた、など必ず原因がどこかにあったのです。

子供達が「劣等感」を持たないように、子供達を大人と比較したり、兄弟と比較したりしないよう十分に留意した言動をとる必要があります。劣等感のない子供であれば、勉強時間が増えれば成果も比例してついてくるでしょう。

3. 『コーチングの天才』

「教育」という言葉は、「教」（教える：ティーチング）と「育」（育てる：コーチング）の2字からなっています。もちろん2字の熟語ですから、「教」と「育」の両方ともが大切です。でも、保護者様や学校の先生や我々塾講師がお子様勉強のことで接する時は、「教」が10割で「育」が0割、または、「教」が9割で、「育」が1割というような極端な割合で接していないでしょうか。小・中学生の2倍（3倍?!）以上生きていく大人から見ると、何とも子供達の欠点ばかりが目についてしまいがちです。しかも、それを注意することが、子供のためになると思うと、ついつい「教」の割合が強くなるのは心情としては自然なことかもしれません。しかし、「教」ばかりで「育」が弱すぎると、子供達はいつも・いつも注意をされている・叱られているという印象を持ち、勉強の「やる気」を持たせる面からすると大きなマイナスになります。例えば、保護者様が一生懸命に心を込めた料理に対して、子供さんから何と言われたら、「よし、次も料理を頑張ろう!」と思われるでしょうか。まさか、「何、この料理、ちよつと味が薄いから全然美味しくないよ。」と言われて、「よ〜し、次こそは!!」とは思わないでしょう（笑）「今日の料理は本当に美味しいよ。また明日も作ってね!」と言われれば、「よし、明日も頑張つて料理しよう!!」と思うのではないのでしょうか。

コーチングは技術面でのテクニックもありますが、一番大切なのは「心」です。何も難しく考える必要はありません。

私の親友に私に勝るとも劣らない熱血塾講師がいます。彼は、とにかく生徒達（とりわけ受験生）には厳しい講師でした。それこそ「教」10割、「育」0割と言ってもいい程でした。私はその厳しさが生徒達への愛情から出ているものだと分かっていたのですが、彼と付き合っていて、もう少し生徒に優しく接してあげた方がいいと内心では思っていました。そんな彼を大きく変えたのが、彼自身が子供を授かったことでした。彼は分娩室に奥様と一緒に入り、我が子が生れてくる瞬間をビデオカメラ片手にずっと見ていました。彼は自分の目から流れてくる大量の涙を止めることが出来ませんでした。「産まれてきてくれて、ありがとう!」ただ・ただ、その気持ちだったようです。それから彼は、怒る機会が、かなり減ったと言っています。

保護者様もお子様が生れた瞬間、同じお気持ちだったことでしょう。それから、初めてハイハイをした・初めて言葉を話した・初めて立ったという時に、自分の子供のことを「スゴイ!!!」と心から褒めていらっしやっただと思います。「ちよつと、最近我が子に厳しすぎるかな?」と思われた時は、ぜひお子様が生まれていらっしやっただ時のことを思い出してみてください。保護者様は元々『コーチングの天才』だったので、きっとお子様にとって最高のコーチに戻れるはずです。

1章『うちの子は、なかなかやる気になりません。』のまとめ

- ・親子で夢を語る機会を持ちましょう
→勉強をする目的がはっきりするとそれがやる気に繋がります。
- ・親・兄弟・友人と比較した話をしないようにしましょう
→本人に劣等感を与えると、仮に勉強時間が増えても成果が著しく出にくくなります。
- ・結果だけでなく努力も認め、お子様を褒めましょう
→保護者様は、もともとコーチングの天才だったのですからその時の気持ちに戻れば出来ます。

コラム「思い出に残る生徒 1」

私の塾人1年目の時、当時小学校5年生のYくんにあった。
ご両親ともに腰の低い・とても感じの良い方々だと思ったが、
長男のYくんも5年生にしてとても礼儀正しい少年だった。
ご家庭の事情で、5年生の途中に彼は塾の教室に移った。
それから数ヶ月した後に、何と私も彼が移った教室へ転勤となり、
再び彼の小6の担任として受け持つことになった。

「白坂先生が、Yのために来てくださったんだと本人には言っています。」

とお母様が仰ってくださったのを、今でも鮮明に覚えている。
それから1年間、野球と勉強を両立しながら、公立中受験コースの上位で彼は頑張った。そして、志望していた公立中には1次試験の筆記試験は合格したものの2次の抽選が外れ、結局、地元の中学校へ進学することになった。その後、私は彼にある提案をした。

「Y、ラサールコース選抜テストを受けてみないか？」

中学部のラサールコースの講師は私が心から尊敬できる素晴らしい講師である。その尊敬する講師に、私は以前、質問をしたことがあった。「先生、ラサール高校に合格する生徒って、どんな生徒ですか？」

私は中学受験のラサールと同じで、頭の良さとか発達段階とかという言葉が返ってくるかと思っ

ていたが、その講師は、

「3年間、真面目にコツコツと努力できる才能を持っている生徒です。」と応えて下さった。私は、その言葉をずっと覚えていた。

それまで中学部のラサールコースは、ラサール中学へ惜しくも合格できなかった生徒達の再チャレンジコースの意味合いが強く、私が担当していた公立中受験コースから入る生徒は当時では前例がなかった。しかし、私は Y さんと約2年接してきていて、彼ほど礼儀正しく・彼ほど真面目にコツコツ頑張る生徒なら、3年後にはラサール高校へ合格するのではないか・・・直感でそう感じていた。

彼はラサールコースの編成テストを受けた。当然といえば当然だが、彼の編成テストの点数は決して良くなかった。しかし、中1から中学部ラサールコースで勉強をすることになった。

そして、3年後・・・

私は熊本の教室にいた。そこへ私が尊敬していた前の教室のラサールコースの講師からお電話をいただいた。

「白坂さん、Y、合格しましたよ！！」

(そうか、やっぱり彼は3年間頑張りきったか♪)

そう思った(^ ^)

それから1ヶ月強経ったある日、Y さんのお母様から熊本の私の教室へ連絡をいただいた。

「先生、今日、熊本に Y と2人で来ております。先生にお会いできればと思って・・・。実は、明日、東京へ引越すものですから・・・」

そのお電話をいただいて、私はお母様と Y さんとあるお店で待ち合わせをした。ラサール高校へ合格したものの、彼はお父様の仕事の都合で、東京都立のある高校へ進学することを決めたようだった。

しばらく見ないうちに、すっかり長身のカッコいい少年になっていた。

しばらくお話をして、いよいよ別れないといけない時間になった時、

最後に私は Y さんに質問を試みた。

「Y、お前将来何になりたいの？」

すると、彼は即答で、「先生、僕は将来は環境省で働きたいと思っています。」と応えた。それを聞いた瞬間に私は、「ああ、この子は私を超えた♪」と感じた。中学3年生の将来の夢で環境省という言葉が出てくるとは、全く想定していなかったからだ。

私が彼にしたことがあるとすれば、それはたった1つ・・・彼に中学部のラサールコース編成テストの受験を勧めたこと、それだけだ。

彼がその後に、見事ラサール高校に合格したのは、ご両親の支えやラサールコースで実際に彼の

指導に当たって下さった講師陣や、そして何より彼自身の頑張りによるもの……。私はそこに何の関与もしていない。しかし、彼は私がしたホンの少しのキツカケをずっと胸に留め、東京へ行く最後の日にわざわざ私に会いに来てくれたのだった。

それは・それは、とても嬉しかった（^^）

塾人の仕事冥利……。それは素晴らしい子供達との出会いと、そして彼らが私以上の立派な人へと成長していくことを感じられること……。最初にそう強く感じさせてくれたのが、Yくんだった♪

2章『うちの子は家で全然勉強をしません』

4. 「家は勉強をする環境?！」

「家で勉強しようかと思ったら、家族全員うるさかった。」

そんな言葉を中学生から聞くことがあります。まだ小さいご兄弟がいるなどやむを得ない場合も多いようです。以前、ある保護者様から、「家族の誰かが勉強を始めたら、うちは全員勉強か読書をするようにしています。」というお話を伺ったことがあります。結果的にご兄弟ともにラサール中に合格した家庭でしたが、なかなか出来る協力ではないと、とても感心したものです。(保護者様も仕事の後に、ご自身の好きなTVなどをご覧になりたいでしょうから……。)

また、中学生が個室で勉強部屋を持っている場合も多いですが、その勉強部屋に、TVやゲームやパソコンやマンガなどが完備されている家もあるようです。本人に対して良かれと思って準備してあげた部屋が、勉強をするには最悪の環境になってしまっているという一例でしょう。

だからこそ、塾があるのだと考えます。最近の家は勉強をする環境としては、かなり不向きな場所だとも言えます。本人が授業がない時でも勉強を頑張りたいとやる気を持っていらっしやるのであれば、塾の自習室を活用するのが最も有効です。

それでも、どうしても家で勉強をして欲しいと希望されるのであれば、本人の勉強部屋の中にある勉強を阻害するものを取り除くか、リビングなどで家族と一緒に勉強するという工夫をすれば本人は勉強をしやすくなるでしょう。

(ちなみに、ゲームやパソコンについては、よく相談されることの1つですが、中途半端に認めるのが最もマズイです。許可なら許可、禁止なら禁止がいいです。これらは中毒性がありますので、ケジメをつけて短時間だけするというのが極めて難しいからです。なお、受験生であればTVも禁止にして、どうしても本人が見たい番組だけ録画するのがいいでしょう。そうすれば、CMを見ない分で時間が短縮されますし、ダラダラ次のそれほど見たくない番組まで見てしまうこともなくなるでしょう。)

5. 『1番エネルギーが必要なのは・・・』

お子様が勉強に対してやる気になって、今まで全くといっていいほど自宅で勉強をしなかったのが、その日は、30分間は自分から勉強をしたとしましょう。保護者様の目から見たら、「せっかくやる気になったと思ったのに、『たった30分しか』勉強しないなんて・・・」とガツカリされるかもしれません。もし、そのように思われたなら、それは間違った感じ方だと申し上げざるを得ません。今までゼロだった勉強が30分が増えたというのは、本人からすればもの凄いエネルギーを発揮したことになります。分かりやすい例で、自転車の運転の話をしてみましょう。止まっている自転車を動かすのに、1番のエネルギーが必要なのはどの瞬間でしょうか。サドルにまたがった「最初のひと漕ぎ目」です。ふた漕ぎ目はその半分のエネルギーで充分でしょうし、自転車がある程度動き出したら、ほとんど漕がなくてもある一定以上のスピードで走り続けることができます。

自転車だけでなく、自動車も同じです。高速道路を時速100キロメートルで走行している車を外から眺めると、それはスゴイことをやっているように見えますが、運転者は意外と楽に運転しています。逆にそこまで加速がついた車を急に止めることの方がよほど難しいです。時速100キロメートルまで加速する方が余程エネルギーが必要ですし、最初に車の鍵を差し込んでエンジンをかけ、車が動き出す瞬間に1番大きなエネルギーが必要になります。ですから、ゼロの勉強が30分になったことはスゴイことで、その機会を逃さずにぜひお子様を褒めていただきたいのです。「今日は、自分から勉強を始めて、偉かったね♪」と。そうすれば、次の日も自分から30分だけ勉強を始めるかもしれません。そして、その次の日も・・・。

本人がエンジンをかけた時は、その小さいように見える大きな一歩を、ぜひ褒めていただきたいものです。

6. 「燃やし続けるために・・・」

せっかくお子様がやる気になったのだから、それを持続させて欲しい・・・どの保護者様でもそのように思われるでしょう。ところが「三日坊主」という言葉があるように、やる気の炎を燃やし続けるというのは、かなり難しいことであるのは確かです。

その方法は、たった1つしかありません。どんなに短い時間でも、毎日勉強を続けさせることです。やる気というのは行動によって、自家発電されるという性質があります。例えば、「一緒にカラオケに行こう!」と誘われた時、気乗りしなかったのに仕方無しに行ったとします。ところが、いざ数曲歌ってみると、すっかりその気になってしまって、他の人が歌っているのも聞かずに(笑)、1時間も2時間も楽しんでいた・・・なんていうご経験はありませんか。そう、歌うという行動が、その人のやる気の炎を燃え上がらせたのです。

21日間継続できたことは、それは無意識のうちに出来るようになると言われていています。つまり、勉強が「習慣」になるのに約3週間かかるのですね。その3週間は、たとえ30分でも構いません。継続することがやる気を燃やし続ける原動力となり、やがて勉強をすることがそれほど苦痛でなくなります。1日に5時間勉強をしたと思ったら、次の日はゼロだった・・・より、はるかに効果が高いのです。

毎日勉強をするために勉強の開始時刻と内容を決めた、簡単な計画表があると良いでしょう。ポイントは、終了時刻は決めないということです。本人が集中してやれば、たとえ短時間で終わっても全く構わないと考えて下さい。まずは、21日間どんなに時間が短くても勉強を継続させることが、本人に勉強の習慣を身につけさせるうえで何よりも重要なのですから。

2章『うちの子は家で全然勉強をしません』のまとめ

- ・家は勉強に不向きな環境であることも多いです
→塾の自習室を活用するのが最も効果的だが、勉強部屋の整理・整頓や家族の協力があれば勉強のしやすい空間に変えることも出来ます
- ・たとえ30分の自宅学習でも、褒めましょう
→最初の一步に大きなエネルギーがかかっている。2歩目は1歩目の半分の力で進むことが出来ます
- ・勉強の開始時間と内容を決めた計画表を準備しましょう
→21日間継続できたら、勉強がそれほど苦痛でなくなり習慣として身に付きます

コラム「思い出に残る生徒 2」

私の塾生3年目、当時小学校5年生のMさんに出会った。

少し控え目というか大人しい感じだったが、話す時はいつも敬語でしっかりとしていた。また笑顔をよく見せてくれる可愛らしい女の子だった。持ち上がりで6年生も私が彼女の担任になった。

公立中受験コースは4コースで、彼女はその最上位コースで勉強をしていた。模試の結果はいつもA判定で学力面での不安はなし、しかも、受け答えがしっかりとしていたので面接での不安もなし、つまり、私は彼女の受験に関しては全く心配をしていなかった。

しかし……

合格発表の当日、1番にお電話を下さったのがMさんのお母様だった。

「先生、M、駄目でした。」

「え?!」

私は一瞬頭が真っ白になった。全く想定していない言葉だった。

何と言っていいのか分からなかったが、お母様が静かに言葉をつないで下さった。

「先生、事前に嫌な予感がしていたんです。実は、入試の前に中学校の教頭先生からお電話をいただきまして、『うちの中学校は、みんなと同じことが同じように出来ないといけない学校です。』とされました。Mは、生まれつき心臓が弱い子だったので、小学校の体育の授業は見学が多かったのですが、そのことを仰っているようでした。」

私は信じられなかった。12歳の子供がその中学校に入るため真面目に2年間勉強してきたのに、体育の授業の見学が多いという理由で合格出来ないなんて……しかも、それは病気のためというやむを得ない理由なのに……

私は驚きと怒りで半分パニック状態になった。上司の許可も得ないで、教室を飛び出してしまった。合格発表の日だったので、私宛ての電話がバンバン鳴ったのではないかと思うと教室には迷惑をかけたと思うがとにかくその場には居られなかった。車を運転しながら、ただ・ただ泣いていた。

(M、ゴメン、本当にゴメン、先生に力がないばかりに、何にもしてあげられなくて……)

少し気持ちが落ち着いて夕方に教室に1度戻った後に、上司の許可を得てMさんの自宅へ家庭訪問に行った。お母様が手作りケーキを作って、Mさんと2人で待っていて下さっていた。

私は私なりにMさんを励まそうと、色々な話をした。お母様は堪えきれずに隣で泣いていらっ

しやった。Mさんは気丈にも私の前では、一滴の涙を流さずに、ただ・ただ黙って私の話を聞いていた。

結局、Mさんはその後、塾を辞めることになった。私が彼女に会ったのは、家庭訪問の日が最後になった。

後日、Mさんがお友達伝に、私に手紙をくれた。手紙には

「先生、あの日はわざわざ来てくださって、ありがとうございました。
おかげで気持ち楽になりました。うれしかったです。」

と書いてあった。その手紙を見ながら彼女の気丈さを思い出し、また涙が出そうになった。

私が熊本へ転勤になった後に、風の便りで彼女は福岡へ引っ越したと聞いた。仮にあの中学校へ合格していたとしても、その中学校へはずっとは通えなかったのだとも思った。いや、彼女にとっては合格しなかったことがプラスだったのだと、すぐに思い直したが。

本当は自分が一番辛く・悲しかっただろうに、逆に私とお母様を気遣い、涙を一滴も見せなかった彼女は、本当に強い・立派な生徒だった。

3章『親の目から見ても頑張っていると思うのですが、
なかなか成績が上がリません。

7. 「目に見えない生長」

勉強を頑張っているのに、なかなか結果が出ない生徒が毎年
必ずいます。その時には、この「中国の竹の奇蹟」のお話を
お子様にしておいて下さい。

.....

中国の竹の種は、蒔いてから四年間、小さな芽が出るだけ
何一つ生長がみられない
その四年間、生長はすべて地面の中
土の中に深くその根を張っているのだ
そして、五年目
その竹は一気に二十五メートルも伸びるのだ

.....

私はこの話を読むたびに、ある中学3年生（当時）の女の子のことを思い出します。

彼女は4月に入塾してきて、入学当時から宿題や毎月のテスト勉強などを真面目にコツコツ頑
張る、とても感心な生徒でした。

ところが学校のテストも、塾内での統一模試でも、全然成績が変わらない。上がりもせず・下
がりもせずに毎回同じような成績を取り続けました。保護者様の目から見ても、私や実際に授業
に当たっていた講師達から見ても、明らかに頑張っていて、特に彼女に改善して欲しいことがな
かっただけに、私も内心では「早く彼女に結果が欲しい」と焦る気持ちも正直ありました。

でも、彼女は淡々といつもの雰囲気、いつもの勉強を続けていました。

そして、ついに12月の統一模試で「来ました」

11月の模試と比べて、5教科総点で60点も上がったのです！

そして、冬休み明けの1月の模試でさらに30点上がりました！！4月の頃から、ずっと同じ志
望校を書き続けた彼女・・・ついに合格ラインを超えたのでした。その後、彼女は無事に志望
校に合格していったのでした。

結果は必ず出る・・・でも、いつ出るかは分からない・・・

勝負のポイントは、結果が出るまで努力を続けることが出来るか・どうかのただ一点です。努力
がすぐに結果に結びついていない時は、それは地中深くに根を張るような勉強をしていると思
ってください。

必ず、中国の竹のように5年目がやってきますから.....

7. 『受験はマラソン』

この言葉は、私が保護者様相手のカウンセリングで、1番申し上げてきた言葉ではないかと思えます。

- ・ 「先生、もう中学1年生ですから・・・」
- ・ 「先生、もう中学2年生ですから・・・」
- ・ 「先生、いよいよ中学3年生になりましたらから・・・」
- ・ 「先生、もう中学3年生の2学期になりましたが・・・」

受験には100%はありません。どんな模試でも合格率100%という数字は出ません。しかし、合格率0%という数字も出ません。ですから、どんなに合格可能性が高い生徒でも、不安になろうと思えばいくらでも不安になれますし、どんなに合格可能性が低い生徒でもいくらでも強気になれます。では、同じ点数の生徒が2人が同じ高校を受けたとして、1人は自信満々で当日の入試に臨み、もう1人は不安なまま入試に臨んだとしたら、どちらの生徒で合格可能性が高いでしょうか・・・

だったら、強気になった者の勝ちなのです。受験をする前から「うちの子は合格するに決まっている」と信じて、見守り続けるのです。時には、お子様がテスト前にも関わらず・受験生にも関わらずに勉強をせずに不安に思ったり、頭にくることもあるでしょう。しかし、お子様は「合格するのは決まっている」のです。

そう信じてお子様の応援に徹するのです。受験は短距離走ではなく、マラソンなのです。大切なのは、本人がその志望校を目指し続けて、走り続けてくれることなのです。途中、色々なことがあっても、保護者様がお子様の合格を信じ、そして本人が信じていれば、必ず思った通りの結果を引き寄せます。

柔道の谷亮子選手の言葉は、あまりに有名です。

「最高でも金、最低でも金」

「田村でも金、谷でも金、そしてママでも金」

良い結果を信じていれば、自然とその結果を引き寄せるための行動をするようになります。悪い結果ばかりを考えていれば、それがマイナスの暗示となって、自然とその結果を呼ぶことにもなりかねません。

お子様の目の前の姿、目の前の結果を変えよう・変えようとするのは、短距離走に臨む姿勢です。

42. 195キロをお子様が必ず走りきることをサポートする保護者様でありますように・・・

9. 「言霊」

言霊（ことだま）

＞一般的には日本において言葉に宿ると信じられた霊的な力のこと。

私がブログに毎日

「ついてる うれしい 楽しい 感謝してます しあわせ ありがとう ゆるします」

と、斉藤一人さんの天国言葉を書いていると、オフラインで「白坂さん、あれ何ですか??」と尋ねられました。私は単純に天国言葉を言い続ける（書き続ける）と、その通りのいいことが起きると信じているのです。

日本人は古くから言葉の力を信じていて、今でもそれが続いています。

なぜなら今でも結婚式や葬式で言っではいけない、忌み言葉に気をつけているからです。悪い言葉を発したら、それが現実化することを、心のどこかで信じ、どこかで恐れています。

また、キリスト教の聖書に、

「まず言葉ありき」

とあることや、真言宗は「真言・・・仏の言葉」を唱えて、心と言葉と身体を一致させることが即身成仏につながると教えています。そもそも般若心経の最後の

「羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提薩婆訶」

は、日本語としての意味よりも呪文としての「音」を重視しています。

世界で最も信仰者の多いキリスト教や日本で最も信仰者の多い仏教でも、古来からそのように「音」や「言葉」を大切に、今でもその力を借りることが幸せになる方法だとしているのです。

「ありがとう」という言葉は、もちろん感謝の気持ちを相手に表す時に使うが、逆に「ありがとう」という言葉をいうと感謝の気持ちが湧いてくるということもあります。

であるならば、「ついてる」という言葉を言い続けていけば、ついてくるでしょうし、「しあわせ」という言葉を言い続けていけば、しあわせな気持ちになれるということなのです。

ネガティブなメッセージは、苦勞しなくてもマスコミなどから連日・連夜聞こえてきます。それらのメッセージは、当然に聞いている人の気持ちを暗くします。でも、折角の人生・・・明るく・楽しく・しあわせに生きていきたいものです。

保護者様にとっては、お子様の「成績向上」→「志望校合格」が大きな願いの1つでしょう。

であればこそ、言霊の力を借りて、早速今日からお子様、

「あなたは必ず成績が上がるよ。」

「あなたは必ず合格できるよ。」

「あなたは必ず〇〇高校生になれるよ。」

と、プラスのメッセージを投げかけ続けて下さい。その言葉の通りの現実が親子の前に現れることでしょう。

保護者様からもプラスのエネルギーを、友達からもプラスのエネルギーを、塾からもプラスのエネルギーを得ている本人は、きっと受験当日、「行って来ます！！」と自信を持って出かけていくでしょう。

そのような生徒は必ず合格という結果を得るものです。

3章『親の目から見ても頑張っていると思うのですが、
なかなか成績が上がリません。』のまとめ

- ・今やっている勉強が、地中に根を張るような勉強の場合もあります
→本人を励ます時には、ぜひ「中国の竹の奇蹟」のお話を
して励まし、努力を継続させて下さい。
- ・受験は決して短距離走ではありません。
→本人が最後まで走り続けていれば、ゴールに到着できると
信じて下さい。
- ・言葉は、現実化させるエネルギーを持っています。
→合格して欲しいのであれば、その言葉を、本人に沢山・沢山
プレゼントしてあげて下さい。

コラム「思い出の生徒 3」

私の塾人4年目の4月、当時小学6年生のKさんが入塾して来た。

その年に鹿児島に引越しして来たらしく、私が勤めていた塾が1番近くだったという比較的軽い入塾動機だった。これまでに塾に通ったことはなく、そして特に中学受験を目指していたわけでもなかった。

ところが入塾テストを採点してみても驚いた。

国語・算数ともに90点以上だった。しかも書かれていた答案の字がものすごく丁寧で綺麗な字だった。本来なら上位の私立受験コースで勉強すべき生徒だったと思うが、公立中受験コースでお預かりすることになった。

Kさんは、明るく・礼儀正しく・とてもしっかりとしていた。

もし私が将来子供を授かったら、Kさんのような子供に育てたいと素直に思っていた。お母様と面談やお電話で何度もお話させていただいて感じたことだが、きつとご両親の優しさや温かさや礼儀正しさを日々感じていると彼女のような子供が育つのだろう・・・と感じていた。

彼女は私の社会の授業が大好きだった。

私は小学校の教科書やテキストに載っていない歴史の話がたくさんした。最近では、学校で習っていない知識にあまり興味・関心を持たなくなった子供も多くなってきたと正直感じるが、そういう意味では彼女は知的好奇心が旺盛だった。Kさんはよく、私の社会の授業で習ったことを、ご両親に伝えていたようだった。

最初は彼女は受験希望は持っていなかったが、周囲の塾の友達がほとんど受験をする友達だったので、次第に彼女も受験をしたくなったようで、結局、受験をすることになった。

受験直前の小6生徒全員を集めての入試激励会・・・私は彼女に決意表明を発表させることにした。彼女は一生懸命に作文を書き、それを多くの生徒・講師の前で堂々と発表した。その発表を教室の1番後ろの方で聞いていて、彼女の担任であることで鼻が高いようにさえ感じる素晴らしい発表だった。

彼女は1次試験を合格した。そして2次試験にも合格した。

2月最終週の私の最後の社会の授業の後、彼女が友達と一緒に、授業が終わった私の元に、小6女子一同の寄書を持ってきてくれた。

「先生、1年間お世話になりました。ありがとうございました！」

とても嬉しかったのは当然だが、同時に、次週から彼女達の授業をしなことに対する寂しさがあった。

その年の3月末に私は熊本の教室へ転勤になり、彼女の中学3年間の成長の様子は見れなかった。しかし・・・年賀状とバレンタインのチョコレートが熊本の教室へ届いた。彼女が中1の時だけでなく、中2の時も中3の時も毎年・・・

私にもお世話になった方は沢山いる。しかし、彼女のように毎年お世話になった方にお礼を申し上げていない。Kさんは、「お世話になりました」という気持ちを毎年示し続けることが出来る、

人として1番大切な「感謝」を知る素晴らしい生徒であることを、毎年・毎年認識させられた。

今年の6月、彼女からメールをもらった。

「しばらくメールとめます 春に先生にいい報告ができるように頑張ります」

彼女は現在高校3年生、中学受験～高校受験を経て、ついに大学受験・・・月日経つのは本当に早いものである(^ ^)； 彼女の3回目の志望校合格の喜びの声を来年の春に聞けることを心より待っています。

<終わりに>

「子供は私にとっての宝であり、自分の子供の幸せを願わない親はいない。」

私がある保護者様からお聞きした言葉です。とても印象に残っています。我々塾人も、目の前の子供達の成績向上、志望校合格、そして「幸せ」を日々願って指導をしています。保護者様のお子様への「愛」には足元にも及ばないかもしれません。

ただ、私が10年間この仕事をしていて、保護者様のお子様への「愛」の強さが、時としてはお子様への「攻撃」の強さにつながっていると感じられる時がありました。自分のお子様の欠点に目を向けるあまり、厳し過ぎる態度で臨み、厳し過ぎる言葉を仰る保護者様も少なからずいらっしゃいました。

「我が子には絶対に合格して欲しい。だから、気持ちを緩めないように・・・」

お気持ちは分かるのですが、あまりにマイナスや厳しい言葉ばかり浴びると、子供達は自分に自信が持てず、逆にやる気が起きなくなるのです。ただでさえ、人間の考えることの9割は、マイナスのことだと言われているくらいですから・・・

子供達が、学校の先生からも友達からも塾の講師からも、そしてお母様からも認められ、褒められ、励まされていれば、絶対にやる気が出てくるものです。そして、自分に自信を持つものです。そして、合格していくものです。

この小冊子には、お子様を勇気付けるのに相応しいと思ったお話を9つ書かせていただきました。お子様を励ますのに、そして保護者様が今以上に優しい保護者様になられるのに、ホンのちよつとでもお役に立てたなら筆者として、とても嬉しいです。

保護者様が愛するお子様が、無事に志望校合格、そして夢を実現されますことを心より願って・・・

最後までお読みくださり、誠に・誠にありがとうございました！！

(追伸：この小冊子の1冊目は、2007年6月9日に逝去した
私が最も尊敬する父：白坂光昭の神棚に捧げます。
父がこの小冊子を読んで私を褒めてくれますように・・・)

<みなさんからの感想>

遂に素晴らしい小冊子が完成しましたね。ご苦労さまでした。

私は、小中生については、塾の役割というものの本体は「如何にして子どもの勉強に向かう姿勢を作るか」にあると思っています。上手な教え方というのは、必ずしも子どもにとってわかりやすい教え方とは考えていません。時にはわかりやすく、時にはわざとわかりにくく。その目標とするところは、子どもが自学する姿勢を作ること。そしてそのためには塾だけでなく親と塾が協同する必要があります。

今回の冊子は、コーチングをはじめとして、しんた先生が家庭に望むこと、親しかできないことなどを中核に、協同して子どもたちを育てていく実り多き具体的手段を語っていることに、最大の意義があると感じました。

考える学習をすすめる会 城内 貴夫先生より

小冊子、興味深く拝読させていただきました。

最も強烈な印象を受けたのが、5「一番エネルギーが必要なのは・・・」ですね。指導の際、なるべく「客観的な視点」から子どもたちを伸ばすことを心がけてきたつもりですが、学習習慣の「初動が30分」だと、正直物足りなく感じていたことは事実です。

けど、ポウタイなエネルギーを必要としていたんですね、初動において。この機を逃さず、学習習慣の定着に結びつけることの重要性を痛感しました。

考える学習をすすめる会 石田 和彦先生より

小冊子を拝読させていただきました。

子供の健全な成長にとって、親の愛情は不可欠ですが、

自分だけの感情や立場で子供を見ては

返ってマイナスになるということがよくわかる内容でした。

あせらず、子供の力を信じてあげること。

「教育とは根気と我慢」とはよく言ったものです。

考える学習をすすめる会 手塚 美喜先生より

すばらしい小冊子をありがとうございました。

いつもブログで勉強させていただいておりますが、今回もやはり勉強になりました。話の筋が一本通っており、子供を認めてあげるという力を引き出せるモノかと思います。

白坂さんと太陽進学塾の今後の発展を心より、お祈りさせていただくとともに、私もよきライバルとして勉強を継続します。

このたびは、私にも読ませていただく機会を下さり、ありがとうございました。

光塾 深川 堅護先生より

このような小冊子は、入塾を考えている方たちにとって、とてもプラスになるものだと思います。私自身、同じ塾人として共感できる部分が多くあり、また、忘れていたことを思い出させてくれるものでもありました。読むことで心が落ち着き、ほのぼのとしてくる、確かに「いい話」です。

日々、ストレスが溜まるのは塾人として仕方がないことですが、時々この「いい話」を読み返すことで、ヒートアップした気持ちを落ち着けたいと思います。ありがとうございました。

KJゼミナール 桐戸 宏仁先生より

「熱い」というイメージの白坂先生ですが、今回は先生の「温かさ」を感じました。塾という場において、まずお子さんがいて、保護者様がいらっしやっつて、塾の先生がいます。勉強や受験について最初はバラバラの考え方を持っているかもしれません。ですが、お子様の成績や進路について、日々共に会話を重ね、時に厳しく時に対等に教えたり教えられたりしていくことが大切なんだと思います。

白坂先生のお言葉を読ませていただくにつれ、お子さんと保護者様と先生とが輪になって本心で話し合っている風景が思い浮かびました。ご経験とお人柄なしにしては書くことのできない文章です。ありがとうございました！

学習塾K O - S H I N 島 幸樹先生より

私の心に最も残った一言は「保護者様は元々「コーチングの天才」だった」というフレーズです。私も父として2人の子供を育てていますが、いつの間にか自分が勝手に作った基準や自分や他人と自分の子供を比較しています。子供が生まれた時は五体満足ただただ喜び、笑っただけで大騒ぎしていました。常に前日の子供と今日の子供のどこが変わったのか？そこに神経を集中してその変化を喜び、褒めていました。それこそがコーチングの原点なのだと、白坂先生の小冊子を読んで、目から鱗が落ちたようです。

子供に興味を持ち、その変化をきっちり認め、褒めてフィードバックする。誰からも教えられたわけでもなく、自然に出来ていたのです。まさに、自分も以前は天然のコーチだったのだと改めて感じました。私も、コーチングに関してはいろいろと本を読んでいますがこのたとえば、子供を持つ保護者の方には、コーチングの本をいろいろと読むよりも、遙かに説得力のある例えだと感じました。私もこの初心を常に忘れないように、子供達と接していきたいと思います。本当に心に響く良いお話をいただけたことを感謝致します。本当にありがとうございました。

スクールIE 前原駅前校 米森 真一先生より

『小冊子』昨夜3回読ませていただきました。

子どもや保護者に対する白坂先生の考え方が私と非常に近いことに驚きました。また機会があれば「子ども」「保護者」への接し方など、意見交換させてもらいたいと思います。益々のご活躍を心から応援いたします。

エムジェック 真鍋 裕次先生より

内容については申し分ないと思います。

白坂先生のメッセージが、読んだ方にしっかりと伝わるのではないのでしょうか。僕にも使わせて欲しいくらいです。手に取った保護者様が、「熱」と「センス」と「安心」を感じてくれると良いですね。石井先生の「大切な君だけに贈る本」のような雰囲気も良いですね

みつばち進学塾 山口 英晃先生より

小冊子、読ませていただきました。

9つのお話、どれもとても元気付けられるお話だと思いました。

こういうものをよんで、自分も向上心を絶やさないでいなければとつくづく思います。また、保護者様もこれを読んで、目標へ向かう忍耐やお子様を思い続ける、付かず離れず見守り続けることの大切さが感じられたらいいと思います。信じるものは救われる？では無いですけど、やっぱりお子様を心から信じてあげられ

るのは保護者様ですしね。おいら的にはとっても向上心が持てる冊子でした。継続と忍耐。やはりこれが大事なのだと思います。

この小冊子を読んで、それを保護者様が理解し、お子様まで伝わり。それから二人三脚で志望校合格という夢に進んでもらえたらしんちゃんもこれを書いた甲斐がありましたね！！

それでは、簡単&乱文ではゴザイマスが、これにて失礼させていただきます！ ciao!!

幼馴染であり夢多き料理人 持永 真敬さんより

著者 白坂 慎太郎
(しらすか しんたろう)



- ・ 鹿児島大学法文学部法学科卒業
- ・ (株) 昂に7年間勤務
- ・ 受験ラサール加治屋チーフ・昂帯山校教室長を歴任
- ・ 在職中に生徒授業アンケート全社 2位を記録
- ・ 退社後、有限会社シンタを設立
- ・ ITTO 個別指導学院を運営
- ・ 初年度より鶴丸高校合格者を輩出
- ・ 2007年に「太陽進学塾」を開校させる
- ・ 鹿児島ブロケランキング1位の
ブロケを日々執筆中
特技はストリートダンス
趣味は読書・将棋・映画鑑賞
- ・ 学習塾一筋10年の鹿児島の塾人(^^)

<参考文献>

- ・『幸せな小金持ちへの8つのステップ』 本田 健
- ・『合格への7ステップ』 河野 優

<連絡先>

太陽進学塾

〒891-0102

鹿児島市星ヶ峯1丁目14-8

TEL 099-201-3515

FAX 099-201-3519

info@taiyousingaku.com

<http://taiyousingaku.com/>